

〔造影 MRI 検査〕 に関するご案内

1 医療行為名：造影 MRI 検査

2 検査の説明

(1) 造影 MRI 検査とは

造影 MRI 検査とは、造影剤という検査用の薬剤を血管内（静脈）に注射し、検査部位にコイルと呼ばれる器具を装着して、強い磁場を有するトンネル状の狭い場所に体が入り、体の内部の様子を画像化する検査です。放射線ではなく強い磁石と電磁波を使用する検査のため、放射線被ばくはありません。造影剤を使用することにより、病気の性質や血管・臓器の様子が鮮明に描出されます。

検査中は、工事現場のような騒音がするためヘッドホンや耳栓を使用することがあります。検査時間はおよそ 20～30 分程度です。

(2) 検査当日の食事や薬について

食事制限はありません。服用中の薬は、特に主治医の指示がある場合を除き、いつもどおり服用してください。

(3) 排尿制限に関して （膀胱検査のみ）

膀胱を観察しやすくするため、検査 1 時間前より排尿を控えてください。様々な諸事情により、排尿の制限が困難な方は主治医にご相談ください。

(4) 検査前の準備と注意事項について

検査当日は、なるべく金属がない服装で来院してください。以下のようなものは、必ず検査前に取り外して所定のロッカーに保管し、検査室に持ち込まないようにしてください。



- ・マスカラやアイシャドウなどのお化粧品はさけてください。
- ・アートメイクや刺青は内部に含まれる金属の影響で、熱感や変色・低温火傷の可能性があります。事前に下記連絡先にご確認ください。
- ・磁石の義歯は MRI 検査により磁力が低下する可能性があります。事前にご確認ください。
- ・緊急を要する患者対応等により検査時間が前後する場合があります。予めご了承ください。

(5) 副作用と合併症

注射直後、稀に皮膚のかゆみ、じんましん、吐き気、めまい、血圧低下、息苦しさ、注射部位の出血、腫脹、などが起こることがあります。また注射後1週間までは、じんましんなどの軽度副作用が遅発的に発生することがあります。造影剤副作用による死亡率は83万人～220万人に1人(0.000045～0.00012%)と報告されており、これらの副作用はアレルギーのある人やぜんそくの人に出やすいことが知られています。重篤な副作用が生じた場合は特別な処置を施すことがあります。

腎機能が悪い方は、検査後1週間から数カ月後に、痛みやかゆみを伴って四肢の皮膚に腫れや発赤、皮膚が硬くなることがあります。また、その後関節が動かしにくくなり、痛みが残ることがあります。現時点でこの副作用に対する確立した治療法はありません。さらに腎機能が低下することがあります。

検査後に異変が生じた場合は、主治医あるいは市民病院に連絡し来院ください。

※アレルギーのある方、特に過去に造影剤でアレルギー反応の出現した方は、必ず事前に、主治医と市民病院MRI検査室へ申し出てください。

※水分摂取を制限されていない方は、検査後は水分を多めにとってください。

※授乳中の方は、検査後24時間は授乳を避けてください。

(6) この医療行為に代わる選択肢とその利益と危険性

・他の選択肢

CT検査、超音波検査など

・この医療行為を行わなかった場合の利益と危険性

造影剤等による副作用はありません。しかし病状を正確に診断することができなくなる場合があります。

【連絡先】

岐阜市民病院 MRI検査室

(058) 251-1101 (内線 4114)